



ほっこり…



No.16 2017.12.19
甲良町子育て支援センター
所長 大橋

今年もあとわずかとなりました。ハイハイから立って、いつの間にか2歩3歩と歩きはじめ…ふと気づくと隣の広場からにぎやかな喃語が聞こえてきます。こんなふうに一日一日、子どもたちは周りの環境に自分からかわかって成長しているのに、「1年って早いわねえ」なんて、のんきなことを言っている私ってどうよ…とと思ってしまいます。この一瞬一瞬を「成長」という形で子どもたちはとても有効に、そしてとても中身の濃い時間になっています。私たち大人も負けられないよう、その時その時を大事にすごしたいなあ…と思います。

“指さし”って「ことばの前のことば」なんです

生後10ヶ月ごろになると、言葉はまだ話せなくても面白そうなものや関心をもったものを見つけたら、指さしをして「あっ、あっ」と教えてくれます。「見て！ ワンワンだよ」とか、「ママ、あれはなんだろう？」というような言葉にはならないけれど、一生懸命にお母さんや一緒にいる大人に知らせたり、「おもしろい！」という気持ちを共感しようとしているんですね。

こんなふうに、自分が見つけたこと、感じたことを“ことば”の代わりに“指さし”という方法で一生懸命に大人に伝えようとするのがこの時期の子どもたちです。

“ことば”を獲得する前の伝達手段がこの“指さし”…つまり「ことばの前のことば」ということなんです。“指さし”ってとっても大事な発達の姿なんです。

ここで大事なことは…？！

子どもが一生懸命に指さしをして大好きな大人（お母さんやお父さんなど）に伝えようとしても、その大人と一緒に感動したり喜んだりしなかったらどうでしょう。子どもたちは周りの世界に感動したとしても、もう伝えようとしなくなるし、感動する喜びすら感じなくなってしまいます。

つまり、一緒になって「きれいだね」「おもしろいね」と感動してくれる“大好きな大人”がいることが大事なんです。お母さんやお父さん、家族の存在があって初めて子どもたちは「伝える」ことの嬉しさを感じ、そして言葉が生まれてくるんですね。

さらに、外の世界は、綺麗な花が咲いていたり、虫を見つけたり、風や水に触れたり…など、子どもたちにとって、びっくりでもおもしろく、感動や興味がいっぱいのことばかりです。子どもたちの「ねえねえ、ママ（パパ）見て 見て！」があふれ出る素晴らしい世界です。

ぜひお天気のいい日には外の空気に触れて遊んだり、お散歩に出かけてみてください。遠くに行かなくても、甲良町には楽しい自然とのふれあいの場がいっぱいあります！

さらに…

「指さし」をする時期だけに限らず、子どもたちは、何か面白いこと、楽しいこと、びっくりしたことがあると伝えたくて一生懸命に話そうとします。まだ片言の時は“単語”で、少し話せるようになると「えーっとね、うんとね…」と言葉につまりながらも発見したことを大好きな相手に伝えようとして一生懸命です。そんな気持ちに丁寧に答えてあげることが、この後、いろいろな人とかわりあって物事に取り組む力へとつながっていくんですね。子どもからの発信にちゃんと向き合ってあげると大事ですね。